

## 「北極圏の宇宙クラゲ (3)」

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所

田中 千尋 Chihiro Tanaka

スウェーデンの北極圏に現れた美しい発光雲は、その後調べた結果、ロシアの Plesetsk Cosmodrome (プレセツク宇宙基地) から発射された、Soyuz-2.1b というロケットの噴射物とわかりました。このロケットは軍事偵察衛星 (光学/レーダー)、電子情報収集 (ELINT) 衛星、通信・中継衛星 (軍用) などの打ち上げに使われますが、詳細は公開されていません。

観測地のポルユス (ヨックモック郡) とプレセツクは 1000km 以上離れていますが、最高到達高度は 1000km、最長到達距離は 4000km にも達するので、この距離からでも写真に写ったのです。



最高高度に到達すると、飛翔体は西に向かって高度を下げ始めました。まさに「宇宙クラゲ」の異名にふさわしい美しい姿です。



西の地平線に近づく前に、飛翔体は急に増光し、明るく輝きだしました。衛星投入が失敗して爆発したのだろうか？



北カメラの画角を抜けた飛翔体は、西カメラの範囲に入ってきました。飛翔体の増光の様子は、このカメラにも写っていました。



光る雲のかたまりのようなものが残りました。これはロケットの爆発ではなく、ノルウェー海に着水する前に残った燃料を放出する「ベント」によって見られる現象です。



最後にはかすかな光軌を残して、壮大な「宇宙シヨウ」は静かに終了しました。